

令和7年度第1回八千代市環境審議会会議録

日時	令和8年1月27日(火) 午前10時00分～午前12時00分	場所	八千代市役所旧館4階 第2委員会室
議題	(1) 八千代市第4次生活排水対策推進計画の策定にかかる答申(案)について (2) 八千代市第3次環境保全計画の進行管理について (3) 八千代市環境経営レポート(令和6年度実績)について (4) その他		
出席者	小倉 久子 (学識経験者:元千葉県環境研究センター水質環境研究室長) 谷合 哲行 (学識経験者:千葉工業大学先進工学部教育センター准教授) 馬上 丈司 (学識経験者:千葉エコ・エネルギー株式会社 会長) 佐藤 孝之 (事業者代表:八千代市農業委員会委員) 永瀬 良司 (事業者代表:八千代市工場協議会 東洋佐々木ガラス株式会社 生産本部長) 橋本 慎一郎 (事業者代表:八千代市建設業協会 副会長) 岡本 哲夫 (市民委員) 田中 麻美子 (市民委員) 柏木 米子 (市民委員) 春田 洋一 (市民委員) <p style="text-align: right;">以上10名</p>		
公開又は 非公開の別	公開		
傍聴者	傍聴3名(定員5名)		
事務局	佐藤経済環境部長 環境政策課 9名 (高倉経済環境部参事兼環境政策課長, 萩野ゼロカーボンシティ推進室長, 竹内副主幹, 秋山主査, 石崎主査, 我妻主査補, 斎藤主査補, 横井主査補, 内田主任主事) クリーン推進課 1名 (陰山クリーン推進課長)		

**事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）**

会議成立の報告・欠席委員の報告・傍聴人の報告

**事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）**

新年度になり、事務局の体制が変わっておりますので、紹介をさせていただきます。

--- 事務局職員の紹介 ---

**事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）**

会議開催にあたり、経済環境部長の佐藤からご挨拶を申し上げます。

**佐藤部長**

皆様、改めましておはようございます。経済環境部部長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「令和7年度第1回八千代市環境審議会」の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当審議会委員の皆様方におかれましては、お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より本市の「環境行政の推進」に際しましては、ご指導、ご協力を頂いておりますことに、改めてお礼を申し上げます。

本日の審議会の内容は「八千代市第4次生活排水対策推進計画」の策定にかかる答申案についてと八千代市第3次環境保全計画の進行管理及び八千代市環境経営レポート令和6年度実績に関する報告を予定しております。

生活排水対策推進計画策定に関しましては、11月に行った意見聴取においては、委員の皆様からたくさんのご意見を頂戴いたしました事をこの場をお借りして御礼申し上げます。

皆様から頂戴いたしましたご意見と11月から開始したパブリックコメントで頂いたご意見をとりまとめ、答申案を作成するにあたり市の考え方をご説明させていただきます。

また、本市の環境行政を総合的かつ計画的に推進するため策定した「八千代市第3次環境保全計画」の進捗状況と市の業務から排出される温室効果ガス削減に向けた取り組み状況などをまとめた「八千代市環境経営レポート」についてご報告させていただきます。

詳細については、各担当からご説明をさせていただきます。

限られた時間の中ではございますが、ご審議等、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

**事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）**

続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。

--- 資料の確認 ---

**事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）**

ただいまより、会議に入らせていただきます。八千代市環境審議会規則第3条第1項の規定により、議事進行を小倉会長に務めていただきます。小倉会長、よろしくお願い申し上げます。

**小倉会長**

議題に入る前に、会議録についてお諮りしたいと思います。

会議録は要点記録方式により作成し、会議録署名人は、出席委員の中から議長が指名するお二人の方をお願いするということによろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

## 小倉会長

ありがとうございます。では、会議録は要点記録方式で作成していただきたいと思います。  
本日の会議録署名人として、橋本委員と田中委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

--- 橋本委員・田中委員 了承 ---

## 小倉会長

ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。  
では、早速議題に入りたいと思います。八千代市第4次生活排水対策推進計画の策定にかかる答申案ということで、事務局の方から説明をいただきたいと思いますが、よろしくお願ひします。

## 事務局（内田主任主事）

- ◆「八千代市第4次生活排水対策推進計画（素案）」の主な箇所について、議題1資料1 各委員からのご意見及び対応内容から抜粋して説明。
  - ・質問No. 6の意見に対し、10ページに印旛沼流域の他の河川との比較表を追加し、修正した。
  - ・質問No. 8の意見に対し、印旛沼流域では単独処理浄化槽やし尿汲み取り便槽からの転換といった対策などが重要であると考え、その旨の一文を16ページに追記した。
  - ・質問No. 9、質問No. 10の意見に対し、18ページの図2-18の図を変更し、説明文を追加した。
  - ・質問No. 13から19、質問No. 23において、第4次推進計画における目標に対し、20ページに「目標値に達しなかった主な要因として考えられる、単独処理浄化槽人口が想定よりも減少しなかったことが考えられます。」という一文を追記した。  
22ページに「単独処理浄化槽やし尿汲み取り便槽から高度処理型浄化槽への転換を促進すること」を追記した。  
24ページの第4次推進計画における各取組において具体的数字を示せるものに関して、追記した。  
38ページに第3次推進計画の取組評価一覧を追加した。
  - ・質問No. 17、質問No. 23の意見に対し、27ページに処理形態別の八千代市内公共用水域への排出量を示した図3-1を追加した。
  - ・質問No. 33の意見に対し、37ページに資料6飲食物や調理からの汚れの量を示すデータを追加した。
  - ・質問No. 36の意見に対し、説明文を修正した。

## 小倉会長

ありがとうございました。  
出されたご意見、それに対する市の対応ということでご説明頂きました。  
このことについて、さらなるご意見、また追加のご意見などありませんか。

## 春田委員

道路の下に雨水管と污水管があり污水管は花見川終末処理場まで繋がっていて、そこで処理をされているようですが、新川等の河川の役割が分からないので、家庭から出る排水等の処理方法について、その仕組みと処理について説明をお願いします。

## 事務局（石崎主査）

家庭から出る排水の処理方法についてですが、議題1参考資料の15ページにありますとおり、4つの処理方法があります。  
まず下水道ですが、生活雑排水とし尿が污水管を通して終末処理場まで流れ、そこで処理をした後、東京湾へ放流されます。

次に合併処理浄化槽ですが、生活雑排水とし尿を各家庭にある合併処理浄化槽で処理をしてから近くの河川へ流れる仕組みとなっています。

次に単独処理浄化槽ですが、先ほどの合併処理浄化槽と違い、し尿だけを処理してから近くの河川へ流れる仕組みとなっています。

最後のし尿汲み取り便槽ですが、し尿を衛生センターに集めそこで処理をしてから近くの河川に流れる仕組みとなっています。

この為、単独処理浄化槽とし尿汲み取り便槽は、生活雑排水が処理をされずに河川へ流れる仕組みとなっておりますので、これをいかに無くして行くかというのが生活排水対策推進計画の役割だと考えています。

## 春田委員

ありがとうございます。概念的には分かるのですが、田んぼがある地域の河川のBOD値が高いというのがあったと思います。

各家庭から出る排水と特定地域での河川の汚れとの関係が分からないので、説明をお願いします。

## 事務局（石崎主査）

議題1参考資料の17ページに八千代市污水適正処理構想図を掲載しています。八千代市の南部のほとんどが公共下水道区域となっています。これに対し北部は居住者が少ない為、公共下水道区域が少なくなっています。このため、北部は個別処理が多くなっています。

また河川の水質についてですが、参考資料の10ページが水質調査結果になります。

神崎川の水質が環境基準を超過しているのが汚いのではというお話かと思いますが、神崎川は市内の他の河川より厳しい基準が設定されている為、調査結果は他の河川と比較すると悪くないのですが、基準を超過してしまう場合があります。

新川については、桑納川、神崎川が新川に合流し印旛沼に流れるという形になっていますが、新川の流れが少ないことと、2つの川が合流して汚れが入ってくる為、水質の改善が進まないというのが現状だと思います。

## 岡本委員

議題1参考資料についてちょっと気になることがあったので意見を入れさせていただきました。

先程の説明にありましたけど参考資料の17ページにある八千代市污水適正処理構想図を見ますと、八千代市の南側は公共下水道区域が多く、ここに関しては下水道を利用している。

また、北側は下水道がほとんど整備されていない為、合併処理浄化槽か単独処理浄化槽、し尿汲み取り便槽のどれかを使用していると思います。

18ページに下水道整備区域の家庭からの生活排水の流れなどを説明する図があるのですが、生活雑排水は各戸で処理しないでそのまま污水管に入って、花見川終末処理場まで流れ、そこで処理をした後、海に放流される。

また、雨水は雨水桝から道路側溝、雨水管を経由して川に放流されるので、問題無いと思いますが、古いアパートのベランダに設置されている洗濯機の排水が道路側溝に流れているというのを見かけます。

あと、使った油を側溝のグレーチングに捨てているお店を何件か知っています。

両方とも雨水管を通してそのまま新川等へ流れてしまいます。

それと八千代市北側の下水道が整備されていないところですが、基本的には合併浄化槽の場合は、下水道と同じく生活雑排水とし尿を浄化槽で処理をしてから流すという形なので、問題は無いかと思えます。

気になるのが、単独浄化槽が減っていないという説明がありましたが、単独浄化槽の場合、トイレの水だけ処理をして、風呂や台所の水はU字溝を通して川に流れてしまうというのがるので、特に神崎川や桑納川に関してはほとんど下水道整備地区ではないので、そういった生活排水が、U字溝を通して川にダイレクトに入ってくる可能性があるかと思えます。

今残っている単独浄化槽を合併浄化槽に替える場合に補助金を出す等の方法があるのか

お聞きしたい。

### 事務局（石崎主査）

議題1 参考資料の24ページをご覧ください。

下水道区域については、取組2の公共下水道の利用促進ということで、単独処理浄化槽やし尿汲み取り便槽を使っている方には職員が戸別訪問、パンフレットの配付を行って下水道への接続を促すという取り組みを行っています。

また、汲み取り便槽の改造時には、工事代金の無利子での貸付制度も行っています。

次に取組3の高度処理型浄化槽への転換・普及ということで、公共下水道区域や公共下水道が整備されるまでに相当の期間を要する区域については、既存の単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの転換に関して、年間15基分の補助金交付を予定しています。

### 小倉会長

単独処理浄化槽をお使いのところは、年配の方が多く、家を新しくする時に切り替えをするということが一番やりやすい訳ですが、家を建て替える予定も無く、生きている間はそのままでもという方が多くて、それを強制的に切り替えることが出来ないで、単独処理浄化槽を無くすというのは不可能に近いです。

また、合併処理浄化槽は単独処理浄化槽より大きくなる為、敷地に余裕が無いと作れない等制約があるので転換が難しい場合もあるそうです。

あと、春田さんの質問ですが、雨水管と污水管があるのはご存じだと思いますが、雨水管は河川につながっており、直接河川に放流されます。

岡本委員のお話にあった事例は例外的なものであり、通常は雨水管を通して雨水だけが河川へ流れていきます。

污水管は河川とつながっていないので、下水道が整備されているところでは、各家庭から出た水は特に処理をせずに污水管に入ってそのまま花見川終末処理場まで流れていきます。

この為、下水道が整備されているところでは、汚れた水が河川に出ていかない仕組みになっています。

ただ少数ですが、単独処理浄化槽やし尿汲み取り便槽を使用するお宅では、生活雑排水が河川に流れていきますので、河川をより綺麗にするためには、単独処理浄化槽等を使用している家庭に対する対策をもっと頑張る必要があるかと思っています。

### 春田委員

BOD値が高いのは分かりました。

マラソンコース等を通った時に冬場ですと川は水の量が少なくなり、水の流れも無くなり沼のようになって淀んでしまう。

あと、堤防や川底に生える雑草等の影響でBOD値が高くなっていくというメカニズムではないかと感じました。

もう1つはほとんど周囲が水田なので、稲作の時期に農薬を使ったり、いろいろと汚れた水が下流に流れるということがあるのかと。通常の川は流れがありますが、冬場は水の流れがない状況が多いです。ある程度水量があれば、流れも変わるとは思います。

### 小倉会長

おっしゃる通り新川は印旛沼と繋がっていますので、実際にはほとんど印旛沼の水ですが、流れが無い為、沼と同じように溜まっている状態になっています。

ですから新川のBOD値やCOD値が高い理由は、汚れたものにより高いのではなく、沼の中と同じく植物プランクトンが多くなる事で有機物が多くなるためなので、汚れの尺度を数値で判断されるのは新川にとって酷な話かなと思っています。

### 佐藤委員

八千代市北部の下水道が普及していないところでは、やはり農業が盛んです。また、新川沿いでは流れが無いので、新川の水を汲み上げて農業用水として使用しています。

肥料等も使用しますが、田んぼ全体に肥料が行き渡らず、溢れることがあります。

その他にも、新川は印旛沼と繋がっていますので、外来植物のナガエツルノゲイトウが、毎年新川で繁茂し、ものすごい大きな島みたいになります。

農業の方でも農薬の使用量を減らしたり、肥料を適正に使用することで以前と比べるとかなり良くなっていますが、新川自体に流れが無い事が一番大きな要因じゃないかと思います。

あと、単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に切り替えることについてですが、最近農家も若手がいないので、どうしても高齢世帯になってしまう。

そうすると、切り替えについて、わざわざそこまでやらなくてもということになってしまうのだと思います。

一応その辺のご理解が頂ければと。

## 岡本委員

佐藤委員へお聞きします。

印旛沼は閉鎖水域で、洪水期には水位に合わせて利根川や大和田排水機場で東京湾へ水を流していますけれども、先ほど言われた農業で使用する農薬や肥料の件ですが、八千代市の北部に水田がたくさんありますが、水田から流れる富栄養化した水が汚濁の一部となっているということはあるのでしょうか。

## 佐藤委員

否定は出来ないと思います。あと、耕作放棄地も増えていますので、植物が繁茂するとそういうのが流れて来るというのは十分あります。

## 小倉会長

肥料の中の窒素分が印旛沼のプランクトンを育ててしまう為、問題なのですが、水田からはほとんど肥料の流出は無いです。

肥料が問題となるのは畑の方だと言われています。

ですから、水田から流れていきそうな気はしますが、負荷量としては多くありません。

## 事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）

いろいろなご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

また小倉会長から単独処理浄化槽の現状をお話し頂きまして、まさにその通りで我々としても単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に転換ですとか、下水道への切り替えを促していきたいのですが、なかなか進まないというのが現状です。

また、岡本委員からは古いアパート等でベランダにある洗濯機の排水が雨水管へ流れるとか店舗の油の話の話を頂いたところではありますが、やはりそういった実態も掴んではいて、その都度指導をすることで、解消していきたいと思っています。

補助金を交付し単独処理浄化槽から高度処理型合併処理浄化槽への転換を促進していることや、浄化槽の利用者に対し、清掃などの維持管理を適正に行うよう促すこと、環境学習の充実ということで自分が出した水について責任を持つというところで、大人から子供まで水質に関して興味をもってその対策について実践するという啓発を地道にコツコツとやっていくしかないというところで頂いた質問に対しての回答をこのようにまとめさせて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

## 小倉会長

私の感想ですが、当初案は第3次を基本として数値を更新する等、第3次を踏襲したものでしたのですが、皆様から意見をたくさん頂き、それを事務局が真摯に受け止めて、修正案はとも良いものに出来上がったと思います。

生活排水に特化するというより、春田委員のご意見のように、河川の水質等、生活排水より広い範囲の質問や意見もあったかと思います。

まだ意見があるかもしれませんが、それについては、本日配って頂いている「八千代市の環境」に詳細が出ておりますので、そちらを読んだ上で意見等を事務局へ寄せて頂ければと

思います。

八千代市第4次生活排水対策推進計画をこの形で確定するとして答申案を提出してよろしいかとの事ですが、特に反対の意見は出なかったと理解しておりますが、よろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

### 小倉会長

ありがとうございます。ではご承認を頂けたということで、事務局はそのように手続きを進めて頂きたいと思います。

では、議題はこれで終了ということで、次に報告事項に移ります。

最初に報告事項の1つ目として、八千代市第3次環境保全計画の進行管理について事務局から説明をお願いします。

### 事務局（竹内副主幹）

◆ 報告事項1 資料1 「八千代市第3次環境保全計画の進行管理について」を用いて説明。

#### ・(1) 施策内容に関する調査

施策内容に関する調査として、各担当課に施策内容の評価を調査したところ、実施又は一部実施の割合が84%であった。また、令和5年度実績と比較すると、実施又は一部実施の割合が83%で、横ばいとなった。

#### ・(2) 指標に関する調査

設定された37の指標について、令和6年度実績を調査したところ、目標を達成しているものが21%、目標達成に向けて進んでいるものが35%、数値が停滞しているものが22%、数値が後退しているものが22%であった。

また、令和5年度実績と比較すると、達成しているものが14%減少、進んでいるが5%増加、停滞しているが16%増加、後退しているが2%減少となった。

#### ・区域施策編の削減目標に対する現状

二酸化炭素の削減状況が全体では平成25年度比で令和4年度の排出量の割合は82.6%となっており、17.4%削減となったが、このままのペースだと2030年度削減目標の達成は困難な為、更なる取組の加速化が必要である。

#### ・各分野別の今後の対応策の方向性について

産業部門については、2030年度目標は達成予定であるが、本市の排出割合の約5割を占め、更なる取組強化が必要である。また、業務その他部門及び家庭部門は削減目標と削減率に大きな乖離があり、目標達成は困難な情勢な為、既存制度の拡充が必要なことなどを記載した。

#### ・八千代市第3次環境保全計画の計画見直しを見送ることについて

環境保全計画を改定した2年前と比較し、環境全般に係わる社会情勢等に大きな変化がないこと。

環境指標の成果が一部停滞しているものがあり、二酸化炭素の削減について、2030年度削減目標の達成が困難な状況であり、取組強化に注力する必要があること。

地球温暖化対策計画の見直しに着手した地方自治体が見当たらないことから、計画見直しを見送ることとした。

### 小倉会長

はい。ありがとうございました。

ただいまの説明について、質問、意見をお願いします。

### 谷合副会長

報告事項1の参考資料2 令和7年度環境指標調査ですが、これは基本的に真ん中にある2025年度の目標値に対して令和6年度の実績値を比較しながら個別の政策に対してどのくらい達成されているかというのを矢印などで見ているわけですが、例えば温室効果ガスですが、本来目標値というのが1,168という数字にならなきゃいけない。

これが令和6年度の実績値が1,351で2022年度のところから比べてほとんど減っていない。

ほとんど減っていないから、停滞ですという表示になっていますが、本来の目標値の1,168から比べれば、後退していると評価されてもやむを得ない感じです。

同様に目標値がどれだけ達成されているかというところを見ていくと、本来後退しているようなところが停滞しているという評価になっていたりと多々あります。

私は廃棄物やリサイクル等に係わっているので、特にごみの関係のところの数値を細かく見ましたが、例えばごみの排出量も確かに2022年度より令和5年度、令和6年度は減っているわけですが、目標値から比べると明らかに増えていますが、評価では進んでいるとなっている。

事業系のごみ排出量も2022年度の11,572に比べれば令和6年度実績の11,128ですが、目標より多いですし、そういうところが各所に見られていて、進んでいるとか停滞している等のところが、目標に対する実績なのか、最初の2022年度に対してなのか。目標(2025年度)達成に向けた方向性となっていますので、この目標値と比べた時に評価が正しくないなと感じています。

その辺のちょっと評価の甘さというか、特に温室効果ガスの排出の所であったりとか、ごみ問題に対する部分であったりとか、記号の部分だけかもしれませんが、甘めかなと見えるところがありますので、説明をお願いします。

### 事務局(竹内副主幹)

はい。今のご指摘についてご説明申し上げます。

目標値2025年度に対して、この実績値の評価が問題ではないかというような話であったかと思いますが、まずここに記載させて頂いたものの評価としては、どちらかというとな2025年度に向けたというような記載をしておりますが、2022年度から見て、令和6年度がどうだったかというところでの掲載になっています。

谷合委員から説明不足や標記内容について等のご指摘を頂きましたので、そこに関しては、これから先どういった形でお示ししていくか、また、2022年度と比べてこの表は作りましたが、そもそも目標値に対してどうなのかというような記載に変えた方が良く思いましたので、また事務局内で検討させて頂いて、今後より分かりやすい資料の作成に努めていきたいと考えております。

### 谷合副会長

という事であれば、今の矢印とか記号が入っている部分は、現状のままならば、目標でなく、現在、2022年度に対する進捗状況みたいな表現になるでしょうし、その形でいくのであれば、当初立てた目標をちゃんと達成させていくところに注力しないと現状を改善できないという話になるのかなと思います。

つまり今ここで立てている2025年度の目標というのが、そもそも高すぎる。そういう風に読み取られてしまいかねない。

ですから、それはそのまま甘い目標設定のままだと、当然2030年度やその先の2050年度の目標をクリアすることは到底できないままズルズル行ってしまうということになりますので、結局どこかで本当の進捗状況と実績を見て、目標を変えるのかあくまで目標を堅持して、そこに向かって具体的な施策を打つのかどっちかをちゃんとしないとこの問題は解決しない。幾ら議論をしても、多分解決しないということになってしまうかなという気がします。

### 小倉会長

やっぱり、以前のように少しでも改善されれば、良いという考え方では甘いというか、もう通用しない段階に入ってきていると思います。

2030年度や2050年度の数値目標があるわけですから、その目標を達成する為にどれくらい進めなければいけないのか。希望の目標値ではなく、義務として何が何でも達成しなければならない数値が目標値になっていますので、谷合委員のご指摘の通り、そこはきっちり総括して頂きたいと思います。

他に如何でしょうか。よろしいでしょうか。

もう1つの報告事項がありますので、そちらに進ませて頂きます。

2つ目は八千代市環境経営レポート令和6年度実績についてというご報告になります。お願いします。

### 事務局（斎藤主査補）

◆ 報告事項2資料1「八千代市環境経営レポート（令和6年度実績）」を用いて説明。

・職員による環境配慮行動が十分に浸透し、成果が確認できる事や、令和8年度を始期とする新たな事務事業編に合わせてシステムを見直す予定があることから、「八千代市環境経営管理システム」の運用を変更する為、令和7年2月5日より運用を一旦休止している。

・環境経営目標

二酸化炭素に換算した温室効果ガス総排出量を基準年である平成25年度比で、廃棄物の焼却が7%削減、廃棄物の焼却以外が28%削減として、全体で18%削減を図るとともに令和12年度は全体で34%削減することを掲げている。

・エネルギー使用状況等調査結果報告

令和6年度は令和5年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響がほぼ見られなくなり、概ね令和5年度と同等の数値となった。

また、電気使用量については、近年の猛暑による冷房使用の影響や、施設の新設や改修による稼働開始の影響もあり、エネルギー使用量が増加したのではと分析している。

電気使用量の削減のためにLED照明への切り替えや太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの導入が必要である。

ガソリンや軽油については基準年度より増加傾向にあるため、エコドライブの推進や公用車への電動車の導入を一層推進する必要がある。

・温室効果ガス排出量

令和6年度の温室効果ガスの総排出量は、令和7年度の削減目標値に届かなかったが、基礎排出係数使用では着実に削減率を伸ばすことが出来た。

ただし、調整後排出係数使用では、令和6年度は該当の係数が基礎排出係数と同値となっていた為、削減率を伸ばせなかった。

また、発生要因別では、電気、燃料等エネルギー使用を起源とした二酸化炭素排出量が基礎排出係数使用で基準年度と比較すると19.3%の削減となったが、一般廃棄物焼却量を起源とする二酸化炭素排出量は基準年度と比較して6.3%の削減に留まった。

削減目標の令和7年度に18%削減を達成するためには、電気使用量及び一般廃棄物焼却量を中心に一層の削減が必要となる。

・その他に、再生可能エネルギー、省エネルギー設備の導入等について説明した。

### 小倉会長

はい。ありがとうございました。これについてご意見をお願いいたします。

### 馬上委員

私から8ページと10ページについてそれぞれコメントさせて頂きたいと思います。

まず8ページの考察のところも含めて、電気使用量の削減といったところへの言及があり、そこで太陽光発電のことも言及されていますが、これは恐らく将来的に他の項目との矛盾が発生すると思ったのは、化石燃料の自動車を電化したら電気の消費が増えるという話でありまして、あともし化石燃料の暖房を使用しているところが、将来エアコン、ヒートポンプ化されれば、電気に置き換えられるので、電気に関しては今後、使用量が下がらないことが問題にならない場合があるのではないかと。

要はより環境負荷の高いエネルギー資源から再生可能エネルギー等の電気に置き換えたことで電気の使用量が増えること自体は、これは市全体としての環境負荷を削減できているはずですので、少なくともここに関してはもう少し別の表現であるとか、少なくとも国全体としても将来は電化によって電力需要は増えますというのは、経済産業省資源エネルギー庁が認めているところでありまして、ここに関してはこれを読む市民の方々にも誤解を招かない様にエネ

ルギーというのは、今、転換されていくもので、かつ、電化をしたうえでそれを太陽光発電なり再生可能エネルギーで賄うことで、環境負荷の低い、或いは気候変動対応が推進されるといったところで、少しこの表記についてご検討を頂ければと思います。

それから、10ページの再生可能エネルギーの導入のところ、1つは公共施設への太陽光発電の導入は、今、環境省等の目標でも、地方公共団体に関しては2030年までにある程度の導入を進める。例えば設置可能な場所の50%には導入したいよねということも言っております。

八千代市も実際に設置可能なポテンシャルがこれぐらいあって、今、政府目標が掲げられている中で市としての進捗がどれくらいなのかというのを表記して頂くとよいのではないかなと思いました。

それと調達している電気の環境価値、非化石証書でもヘッジを行っているということがありますが、ただこれもこの先何年後かわからないですけれど、やはり非化石証書が本当に継続調達できるかどうかというのは難しい問題になってくるのではないかなと。

要は非化石証書の供給量に対してそれを必要とする事業者が増えてくると、今契約している電力会社がそれを5年後、10年後も担保できるかどうかというのは、非化石証書が調達できなくなったとき、調達コストが少し増えるのか、或いは調達ができなくなったから、再生可能エネルギー相当のものに評価ができなくなってしまうことも将来懸念される場所なので、ここについても、今、目先の対策としては非化石証書の調達というものが有り得るものも、その先についてしっかりと市内での再生可能エネルギーに置き換えていくことがどれぐらい可能か或いは、そういった見通しがあるかということもご一考頂ければと思います。

私からは以上です。

#### 事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

8ページのところの考察につきましては、精査、検討をしてみたいと思います。

その他の所については、先ほどの計画の話にもありましたが、目標に対して結果を出す施策をしっかりとしないといけないというところの認識をしておりますので、公共施設への太陽光パネルの設置や再生可能エネルギーを太陽光パネル以外で出来るような市の事業の内容についても引き続き検討してまいります。

#### 谷合副会長

報告事項2の資料1の8ページの項目別エネルギー等使用実績についてですが、一般廃棄物の処理は令和元年度と令和5年度が高く令和6年度は低くなっています。これに対してコピー用紙の使用量は平成25年度に対して令和元年度、令和5年度、令和6年度は増えています。

ペーパーレスの時代になり、この会議もペーパーレスでやっていますが、どこにコピー用紙を使用しているのか気になりましたので、説明をお願いします。

#### 事務局（斎藤主査補）

令和5年度から6年度にかけて増加傾向があったことについては、コロナの影響が無くなったことで業務縮小が緩和されたことが影響していると考察しています。

あと、各課の業務の影響があると思います。例えば、マイナンバーカードの申請や更新に関連して紙の使用量が増えるとかコロナワクチンの定期接種化に伴い事務上の書類の増加、コロナの影響が無くなって、審議会や総会等を開催するようになり、諮問の資料ですとかパブリックコメントに大量に使用したことが令和6年度の実績として増加しているといったこととなります。

なお、令和7年度から文書管理などの決裁事務が電子化されました。それによって各課で文書を印刷して手続きをするといった機会がかなり減ることになりますので、令和7年度以降については、減少傾向に転ずると考えております。

#### 事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

廃棄物処理の庁内関係のところですが、現在、新庁舎を建設中ですが、新庁舎へ移る前に各

課がストックしている不要な書類等を減らすようにしています。これにより、廃棄物の処理量が今後増える傾向があると思います。

### 事務局（陰山クリーン推進課長）

クリーン推進課長の陰山です。

一般廃棄物焼却量ですが、ごみ排出量でなく清掃センターでの処理量になりますので、令和元年や令和5年の増加に影響したと思われませんが、ごみの排出量は減少傾向にあります。

八千代市は人口増に係わらず、年々ごみが減少しているのは、市民、事業者の皆さまのおかげです。また県内では、市のレベルでいいますと、1人1日当たりのごみの排出量は2番目に低い状況となっています。

### 谷合副会長

新庁舎の建設に伴って、ゼロエネルギービルディングについて話もあったかと思いますが、ちょうどこの前のGXセミナーの中でもエネルギー自体のGX化もそうですが、行政機関や仕事の仕方もグリーントランスフォーメーションで変えていかなければならない時期に来ているという話があったかと思うので、具体的にそれが進んでいく過程の中で、一時的に書類が増える時期や廃棄される書類の量が増えることがあるかもしれませんが、全体としてきちんと減らしていかないと、二酸化炭素の排出量の削減に繋がらないと思います。

### 柏木委員

このコピー用紙の使用量が増加していることについてですが、この審議会もペーパーレスになっていますが、私はパソコンを操作することが出来ない為、事務局にお願いして印刷してもらいました。八千代市には私のような老人が多く、紙でないと分からないという方がいっぱいいるのではと思います。

ゼロカーボンに関して、普段みんなが出来ることというのを考えており、自分もそうしていますが、八千代中央図書館の周りとかに植樹をしてグリーンカーテンを作りたいと思っています。

ここ最近グリーンカーテンがすごく少なくなっていますが、グリーンカーテンを推奨することで二酸化炭素の削減に繋がるかと思っています。

あと、千本桜ですけれども、今年もお祭りが行われますが、桜の下に素晴らしいスペースがあるので、そこに植樹をしたらどうかというのを他の所でも提案しています。

あと、花輪川の掃除や道路の整備をしている高齢者の団体があります。

週末や祭日に活動していますが、市の方にも見に来て頂いて、活動を広げて行ければ良いと思っています。

植樹についてですが、横浜国立大学の故宮脇昭先生が東日本大震災の時に瓦礫を地下に埋めて堤防を作りそこに植樹をしましょうと提案をしましたが、いろいろな利害関係で縮小化されましたが、八千代市も新川沿いや、新庁舎にも周辺の方に迷惑が掛からない程度に植樹をしていただければと思います。

### 事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

グリーンカーテンとかちょっと個別のところと言及するのは難しいですが、環境保全計画の中にグリーンツーリズムとか緑や環境を守るといった市の施策を掲げております。

頂いた意見を参考に引き続き対応できることは対応して参りたいと思います。

### 馬上委員

報告事項2資料1の7ページの項目別エネルギー等使用実績で電気の使用量を考えた時にせっかく公共施設に太陽光発電が入っているので、恐らくすごく小さくなると思いますが、発電力量や自家消費の実績も入れて頂くと良いのではと思います。

あと、電気使用量についてですが、市民向けということであれば、非化石証書を使った電力調達をしているので、その比率を表示することで、先ほど話しましたが、電力の需要が増えているけど、環境負荷の低い再生可能エネルギーを使用しているので、全体的には環境負荷を低

減しているという説明が付くと思いますので、この点についてもご一考頂ければと思います。

#### 小倉会長

おっしゃるとおり、それを付けてこそ電力需要が上がるという説明になりますね。

事務局にはお願いしたいと思います。

この報告事項についてのご意見はそろそろ出尽くしたかと思いますが、今日まだ全員の方に発言を頂いていないので、今まで発言の無かった方から一言、今日の感想や思っている事をお願いできますか。

#### 永瀬委員

今回の修正案に対して、先ほど議長から真摯に対応して頂いたということで、丁寧に回答を頂いてありがとうございました。

あと、最後に馬上委員と同じ質問になりますが、非化石証書を5,940tほど購入していくという話がありましたが、八千代市としてはそれを継続して伸ばしていくのかというのをお聞きしたいのですが。

#### 事務局（竹内副主幹）

非化石証書の電力に関しては今年の3月に導入しまして、契約期間が2年ということになっておりますので、2か年はそのままということになります。

また今後については、先程の議論にあった非化石証書の継続調達や金額の問題を考えると同じようにはいかないと思っていますので、発電設備の導入と両輪で考えていかなければと思っています。

#### 橋本委員

私もこれを聞きながら、いろいろ勉強させてもらっています。

ぜひこういう資料について協会としても打合せや話し合いをしていきたいと思っています。

#### 田中委員

先程、岡本委員から店によって油を流しているところがある話がありましたが、私の方が、油やスーパー等で捨てられている魚の皮等の残渣から魚用のエサを作るという仕事をしていて、そういうものを回収しているということを全国的にやっている会社を知っていますので、そういうことが出来ますということを周知していかなければと感じました。

#### 小倉会長

サーキュラーエコノミーの最先端の会社ですね。頑張ってください。

皆さんにそういう認識が広がるのが大事ですよ。

これで一言も発言されていない方はいなくなったと思いますが、何か発言があれば。

#### 佐藤委員

今回、下水道関連の話が多かったのですが、環境の事ということで、里山関係の整備とかもやっておりますが、今市内もそうですが県内でもナラ枯れが発生していて、大木が枯れて非常に危険な状態なので、それを除去したりしています。

里山保全とっていますが、50年を経過した森は老人と同じく介護が必要ですが、介護だけでは森は新しくならないので、これからは、新しい森を作っていくというのが、一つの主流になるかと思い、発信をしています。

もともと里山というのは、5年から15年で1回、皆伐されて更地にして、そこから始めるので、そういうところを教育と関連付けることが出来ればと考えています。

例えば、幼稚園の年長ぐらいから始めて中学校頃までの間、観察してそういうのを目の当たりにする機会があれば、これこそ生きた教育だと思います。環境教育ということで子供たちの為にも教育委員会とかと連携して進めて頂ければと思います。

#### 小倉会長

ありがとうございます。先ほどの柏木委員のご意見と重なりますね。

#### 柏木委員

緑が丘のイオンの周囲には1.5メートルの森が出来ていて、小さいお子さんとか学生の方が植樹をしています。

そういうことを私たち市民もするべきだと思います。

#### 小倉会長

本当に緑あつての八千代市だと思いますので、ぜひ、いろいろな角度から緑を増やして自然を守るための動きをしていただければと思います。

#### 事務局（萩野ゼロカーボンシティ推進室長）

今イオンという言葉が出てきましたので情報提供になりますが、イオンにイオンチアーズという子供たちによる環境保護を行う活動団体がありまして、道の駅近くで活動している里山保全活動団体とゼロカーボンシティ推進室の担当者が連携し、里山保全の意義やどんなことをやっているとか、浸入竹の活用等を現地で説明する、子供達への環境教育を、地元野菜を使った豚汁作りや火起こしの体験などもあわせて、今年度の秋に行いましたので報告させていただきます。

それから、印旛沼の農業の関係で岡本委員からお話がありましたが、印旛沼の農業用水については、沼の外側の水田のエリア内で活用を図る、循環型に変えていく事業を国営事業で行っていますので、会議終了後ご紹介いたします。

#### 小倉会長

いろいろうれしい情報提供をしていただき、ありがとうございます。

それでは、この辺で終わりたいと思います。

皆さん、貴重なご意見をたくさん有難う御座いました。

では、高倉さんへ進行をお返ししたいと思います。

#### 事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）

たくさんの意見を頂戴し、ありがとうございました。

我々行政だけでは出来ないことがありますので、市民の方、また事業者の方、農家の方、皆さんと連携して進めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

先程の生活排水対策推進計画の答申についてですが、答申の文章化というのを、最終的に頂くこととなります。それは、頂いた意見を参考に、小倉会長に一任で進めさせて頂いてよろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

#### 事務局（高倉経済環境部参事兼環境政策課長）

はい、どうもありがとうございます。

事務局と会長の方で進めさせていただきます。

本日も議論頂きました、生活排水対策推進計画については、3月に計画を策定しその後、公表することを予定しておりますので、ご承知おき下さい。

最後になりましたが、事務局から連絡事項がございます。

現在の環境審議会の委員の皆様が6月17日で満了になります。

今期の会議は今回で終わりとなります。

委員の皆様におかれましては、これまで2年間、委員を務めて頂き、本当にありがとうございました。

今後も引き続き環境保全の推進に努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

事務局からは以上になります。

小倉会長，議事の進行ありがとうございました。

以上を持ちまして，令和7年度第1回八千代市環境審議会を閉会いたします。長時間にわたり，ありがとうございました。